

## 過去の事業成果

### 自殺におけるハイリスク層である「LGBTQなどのセクシュアル・マイノリティ」への自殺防止対策事業～令和4年度(令和3年度からの繰越分)新型コロナウイルス感染症セーフティネット強化交付金(民間団体実施分)～ 事業実施状況報告(令和4年4月～令和5年3月)

標記事業を、(1)自殺におけるハイリスク層であるLGBTQへの直接支援、(2)全国へのアウトリーチ、そして(3)支援者育成の3つの柱を通じ行い、LGBTQの自殺防止対策におけるセーフティネット構築を行いました。

#### 1.常設型のコミュニティスペースを活用した対面による支援について

・ア)の事業として、昨年度に引き続き本年度も全てのセクシュアリティの人にとって安心して過ごせる居場所を提供することができました。

##### (1)「心の拠り所」機能と「相談援助への誘導」機能

・自殺防止対策において重要となる「所属意識」を他の場所では持てないLGBTQなどのセクシュアル・マイノリティ(以下地の文では「LGBTQ」)にとって貴重な心の拠り所としての機能を果たしています。＜資料1＞

・相談目的でなくても来場でき、アウトリーチスタッフによる話しかけにより、誰にも話せなかった悩みを持つ人にとっては、相談援助へのアクセスへの抵抗感を緩和する機能も果たしています。

＜資料2＞

##### (2)「命綱としての機能」

・危機的な状況を脱したが、まだまだ不安定な状況の置かれている方や医療・福祉のサービスにつながっていても、他の場所では自分のセクシュアリティを開示できない方もいて、継続的に支援が必要な相談者も多くなってきています。相談件数も増加傾向にあります。

(前年度比 新規相談:約2倍、継続相談:4倍、のべ相談回数約3倍)

##### (3)生きることの促進要因を増やすため生きがいつくり支援活動の創設の必要性

・危機的な状況から、安定的な状態となり、次のステップに進むことが可能な状況になってきている人も出てきていますが、その受け皿となるLGBTQ+向けの社会資源が不足しているため、「生きることの包括的な支援」を提供する必要性が認識されました。

・生きがいつくりにつながるようなリラクセスができるような余暇的な活動する場や引きこもりなどにより社会経験の不足などを補えるようなライフスキルを身につけられる支援の他、他の人との交流ができる場が必要とされることが求められています。

#### 2.呼び水的な取り組みから全国の地域での自走に向けての支援＜資料3＞

・ウ)の全国へのアウトリーチ事業を令和3年度から2か年にわたり13の地域で行ってきました。本事業を契機に、地域内で相互の連携をとっていき機運が高まり、地域でのLGBTQの自殺防止対策を進めるためにどうしていくのか、具体的な実施に向けて、自走していく土台づくりを行ってきました。

・今後、そうした素地ができた地域に対して、それぞれの地域の実情に合わせて、自殺対策事業を試行的に実施できるように、伴走的に支援をしていきたいと考えています。

・そうした伴走支援を行うことで、東京以外の地域で自殺対策事業を実施するために必要な知見を地域団体と共に蓄積することで、全国へ波及的に展開を進めていく基礎づくりにしていきます。

### 3. LGBTQのグリーフケアの普及について<資料4>

・イ)の事業として、いまだにLGBTQへの理解が進んでおらず、遺族の会などの一般の支援団体の中で安心してグリーフケアを行える状況にはないため、LGBTQの死別体験者独自のわかちあいの会を行ってきました。また、姫路市で開催を行ったことから、東京以外でもニーズがあることが再認識されました。

・一般の遺族支援団体と連携をし、LGBTQへの理解を進めLGBTQが安心してグリーフケアを行える環境を整えていく必要があります。また、LGBTQの死別体験者のわかちあいの会をさまざまな場所で開催できるようにファシリテートする人材の養成が必要となっています。

・そのため、遺族支援団体と連携をし、グリーフワークにおいてLGBTQへの理解を深めるような取り組みを行うことやファシリテーター養成を促す仕組みを作っていくと考えています。

・そして、グリーフワークの必要性や効果が一般的に知られていないことから、グリーフワークへのアクセスしづらいこともあり、Web等を通して、体験談等を共有し、グリーフワークへの参加促進が必要であることが認識されました。

#### <資料1>プライドハウス東京レガシー来場者数の推移

年 月	2022年										2023年			合計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
開館日	22	23	20	20	22	21	23	21	20	20	20	21	253	
月間来場者数(人)	333	363	333	350	321	337	327	376	288	321	330	394	4,073	
一日平均(人)	15	16	17	18	15	16	14	18	14	16	17	19	16	

#### <資料2>レガシー来場をきっかけにのちの相談につながった件数(2023年1月31日時点)

39名(新規相談者数の約4割が、レガシー来場をきっかけにのちの相談につながった)

#### <資料3>地域連携事業の実施状況

2022年度実績						
実施日程			地域名	研修会	居場所・相談支援	合計
年	月	日	相談員	当事者等		
2022	10	8	札幌市		50	50
2022	10	9	札幌市	38		38
2022	11	20	那覇市		42	42
2022	12	3	いわき市		16	16
2022	12	4	名古屋市	100	81	181
2022	12	10	広島市	30	14	44
2022	12	18	函館市		14	14
2023	1	7	香川	63	18	81
2023	1	21	姫路	16		16
2023	1	22	姫路		14	14
2023	2	11	福島市	34		34
2023	2	12	福島市		15	15
2023	3	11	長崎市		14	14
2023	3	12	長崎市	50		50
2023	3	15	連携事業報告会	38		38
2022年度合計				369	278	647

#### <資料4>LGBTQ+死別体験者の分かちあいの会(目標:のべ60人実績:のべ42名参加)

	合計	来場	オンライン
合計	42	36	6
6月26日	7	5	2
8月28日	7	6	1
10月23日	8	7	1
12月25日	8	7	1
1月23日	5	5	0
2月26日	7	6	1

## 【柱1】LGBTQ当事者支援、遺族ケア(拡大実施)

自殺におけるハイリスク層であるLGBTQ当事者やその友人・家族等近親者への相談支援、及び自死など遺族へのケアを行いました。

### ア)相談支援・居場所提供

#### (1) 居場所提供

##### ○事業内容・実績(アウトプット)

・国内初の常設LGBTQセンターである「プライドハウス東京レガシー」(以下地の文では「レガシー」)にて、居場所提供を行いました。

(令和4年度実績:開館日253日、来場者数4,073人、1日当たり16人)

(目標:3,600人、月間来場者数300人、1日当たり15人)

(参考:開設日2020年10月からの総計 開館日554日、来場者数6,174人、1日当たり11人)

年 月	2022年									2023年			合計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
開館日	22	23	20	20	22	21	23	21	20	20	20	21	253
月間来場者数(人)	333	363	333	350	321	337	327	376	288	321	330	394	4,073
一日平均(人)	15	16	17	18	15	16	14	18	14	16	17	19	16

##### ○事業実施によって得られた効果 <地域や社会に与えた影響>

・常設の場所があることの強みを活かし、全てのセクシュアリティの方にとって安心して過ごせる場所を引き続き提供することができました。

・自殺対策において重要となる「所属意識」を他の場所では持てないLGBTQにとって貴重な心の拠り所となっています。

##### ○新たに明らかになった課題

生きることの促進要因を増やすため生きがいづくり支援活動の創設の必要性

・危機的な状況から、安定的な状態となり、次のステップに進むことが可能な状況になってきている人も出てきていますが、その受け皿となるLGBTQ+向けの社会資源が不足しているため、「生きることの包括的な支援」を提供する必要性が認識されました。

・生きがいづくりにつながるようなリラクセスができるような余暇的な活動する場や引きこもりなどにより社会経験の不足などを補えるようなライフスキルを身につけられる支援の他、他の人との交流ができる場が必要とされることが求められています。

##### ○取組みの工夫(事業実施体制・プロセス)

・相談目的でなくても来場でき、アウトリーチスタッフによる話しかけにより、誰にも話せなかった悩みを持つ人にとっては、相談援助へのアクセスへの抵抗感を緩和する機能も果たしています。

#### (2)相談支援(来所・オンライン)

・自殺念慮を抱く当人や友人・家族のご相談に対応をするため、LGBTQ支援および福祉における専門性の高い相談員が来所・オンラインでの相談支援を行いました。

##### ○事業内容・実績(アウトプット)

相談件数等は、下記となっており、前年度(令和3年度)と比較して、新規相談で約2倍、継続相談で4倍、のべ相談回数約5倍になっています。

#### 【相談者数等】

- (1)相談者数 :146名 (2021年度は45名)
- (2)のべ相談回数:450回 (2021年度は86回)

#### 【レガシー来場をきっかけにいのちの相談につながった件数(2023年1月31日時点)】

39名(新規相談者数の約4割りが、レガシー来場をきっかけにいのちの相談につながった)

#### 【主な相談事例(複数の事例をもとに再構成しています。)]

(1)学生の頃、同性のことが好きだと気付いてから、自分は周りと違うのではないか、どこかおかしいのではないかと悩むようになった。誰にも相談できないまま時が経ち、社会人になった今も、まわりに知られることを恐れながら生活している。学生時代の友達は結婚し、家庭を築いていく中、自分だけが孤独だと感じるようになった。そんなとき、プライドハウス東京レガシーを知り、いのちの相談窓口につながった。今では気軽に行ける居場所(レガシー)があることが支えになっている。

(2)パートナーと別れ、家と職場の往復だけで終わる毎日。セクシュアルマイノリティの友達もいないし、趣味もないため、毎日がつらいと感じるようになった。休みの日は朝からお酒を飲んで家にひきこもるようになった。このままではいけないと思うけど、どうしていいのかわからないでいる。

(3)性自認のことで悩んでいることを、両親に話すと親子の縁を切ると言われた。それから家は安心できる場所ではなくなってしまった。自分自身のことを否定するようになり、何度も死のうとしたけど、いのちの相談窓口につながるようになってから、自分のしたいこと(仕事)に気付くことができた。

(4)自分の恋愛・性的指向について誰にも話せないまま50代になってしまった。このままずっと1人かと思うと生きている意味が分からなくなってしまうときがある。パートナーが出来たらいいと思うが、今更どうやって出会っていいのかも分からないから、まずは友人が欲しい。登山が好きなので同じ趣味の人と交流できる機会があったらいいなと思う。

#### ○事業実施によって得られた効果 <地域や社会に与えた影響>

##### ・生きることの阻害要因への対応

相談者が抱える問題解決に焦点をあて、生活困窮や精神面での困難さに対して傾聴と相談援助を行い「生きることの阻害要因」を減らす取り組みを行い、危機的な状況であった方の安定化や深刻化を予防するなどいのちを支えてきました。

##### ・アウトリーチ活動の推進

アウトリーチ活動を積極的に進めており、関係機関との顔が見える関係づくりを行うことができました。

地元新宿区保健所との意見交換や協働団体であるLGBTハウジングファーストを考える会・東京との連携(住宅を必要とする相談者の引き継ぎ2件、連携会議への参加)などが進みました。

## ・相談実績の還元

相談支援の実績に基づき、他の相談援助機関への支援が行えるようになりました。

うつ病学会での活動報告や自治体相談援助担当者との意見交換(栃木県公認心理師協会、公益財団法人おきなわ女性財団)の他、社会福祉士養成校での講演活動(東京通信大学、東洋大学)や社会福祉士実習生の受入も行っています。

## ○新たに明らかになった課題

### ・継続的な支援と相談件数の増加

危機的な状況を脱したが、まだまだ不安定な状況の置かれている方や医療・福祉のサービスにつながっていても、他の場所では自分のセクシャリティを開示できない方もいて、継続的に支援が必要な相談者も多くなってきています。相談件数も増加傾向にあります。

## ○取り組みの工夫(実施体制・プロセス)

### ①専門性の高い相談員の確保

・LGBTQの支援経験のある有資格者(電話相談コーディネーター、公認心理士、臨床心理士、保健師、相談支援専門員、母子自立支援員兼婦人相談員、社会福祉士、心理カウンセラー)に加え、精神保健福祉士を相談員として選任しました。

### ②研修の実施

・今までの相談援助の実績を踏まえ、相談員の研修カリキュラム(自殺対策事業実践に当たっての心構えや考え方のほか、ロールプレイ等)を作成し相談員の実践力を高めました。

### ③継続的な改善のため定期相談員会議の開催

・相談事例を共有し、悩んだことや戸惑ったことも含め話し合うことで、相談員の感情的なケアも行いました。グループスーパービジョンを行い、質の高い相談支援を実施できるよう務めました。相談者から問われたことや相談者が必要とする情報に答えられるように相談員チーム内で情報を教え合うこともしました。



## イ) 自死遺族ケア

### ○事業内容・実績(アウトプット)

・LGBTQの周囲の人はグリーフケアを受けづらい状況があるため、LGBTQの遺族を主対象とした「わかちあいの会」を行い、心理的安全が保たれた場でグリーフケアを提供しました。また、新たな試みとして、姫路市でも「わかちあいの会」を開催しました。

(目標: のべ60人参加、実績: のべ35人参加)

【開催場所】プライドハウス東京レガシー及びオンラインにて開催

【開催日時・参加者数】

第1回: 6月26日(日)10:30~12:00 7人参加(来場5人、オンライン2人)

第2回: 8月28日(日)10:30~12:00 7人参加(来場6人、オンライン1人)

第3回: 10月23日(日)10:30~12:00 8人参加(来場7人、オンライン1人)

第4回: 12月25日(日)10:30~12:00 8人参加(来場7人、オンライン1人)

第5回: 1月23日(日)10:00~12:00 5人参加(来場5人、オンライン0人) ※

第6回: 2月26日(日)10:30~12:00 7人参加(来場6人、オンライン1人)

※姫路市で開催

### ○事業実施によって得られた効果 <地域や社会に与えた影響>

・LGBTQの死別体験を話せる場所はほとんどないので、必要な場を安定的に提供することができます。

・参加者自身の感情面でのケアが行われると共に、他の参加者への気遣いなどが行われ、参加者同士の支え合う関係性も構築でき、ともに生きる支援となっています。

### ○新たに明らかになった課題

・姫路市で開催を行ったことから、東京以外でもニーズがあることが再認識されました。

・一般の遺族支援団体と連携をし、LGBTQへの理解を進めLGBTQが安心してグリーフケアを行える環境を整えていく必要があります。

・また、LGBTQの死別体験者のわかちあいの会をさまざまな場所で開催できるようにファシリテーターする人材の養成が必要となっています。

・そのため、遺族支援団体と連携をし、グリーフワークにおいてLGBTQへの理解を深めるような取り組みを行うことやファシリテーター養成講座へ参加を促す仕組みを作りたいと考えています。

・そして、グリーフワークの必要性や効果が一般的に知られていないことから、グリーフワークへのアクセスしづらいこともあり、Web等を通して、体験談等を共有し、グリーフワークへの参加促進が必要であることが認識されました。

### ○取組みの工夫(事業実施体制・プロセス)

・ターミナルケア専門の医師や遺族支援コーディネーター等専門的なスタッフの他、参加者にも会の運営に積極的に参画してもらい、より安心してグリーフケアができるようになりました。



### 【柱2】全国へのアウトリーチ・啓発

特に地方のLGBTQはより孤立しやすく、かつ情報を得られづらい状況があります。そのため、各地へのアウトリーチ及びオンライン発信を活用し、全国へ支援や情報を届けました。

### ウ)地域でのアウトリーチ支援・相談員育成

LGBTQの課題に取り組む団体(以下地の文では「LGBTQ関連団体」、自殺対策に取り組む団体、行政と連携し、アウトリーチを行います。a.相談支援者の育成講座、b.LGBTQの居場所提供、c.相談支援を全国8地域(札幌市、那覇市、いわき市、名古屋市、広島市、函館市、高松市、姫路市、福島市、長崎市)で実施しました。

(令和4年度実績:のべ参加者数647名)

(目標:自殺におけるハイリスク者であるLGBTQやその友人・家族等:のべ140名、自殺対策に取り組む相談員:のべ70名)

(参考:令和3年度、金沢市、那覇市、福岡市、大阪市、仙台市、事業報告会、のべ参加者数386名)

### ○事業実施によって得られた効果

・全国へのアウトリーチ事業を令和3年度から2か年にわたり13の地域で行ってきました。本事業を契機に、地域内で相互の連携をとっていき機運が高まり、地域でのLGBTQの自殺防止対策を

進めるためにどうしていくのか、具体的な実施に向けて、自走していく土台づくりを行ってきました。

### ○新たに明らかになった課題

- ・今後、そうした素地ができた地域に対して、それぞれの地域の実情に合わせて、自殺対策事業を試行的に実施できるように、伴走的に支援をしていきたいと考えています。
- ・そうした伴走支援を行うことで、東京以外の地域で自殺対策事業を実施するために必要な知見を地域団体と共に蓄積することで、全国へ波及的に展開を進めていく基礎づくりをしていきます。

### ○取組みの工夫(事業実施体制・プロセス)

#### ・各地域での特色のある事業実施ができた。

名古屋市では、乳幼児期からの啓発活動、家族支援を含めて幅広い世代に視野に入れた事業となり、広島市では、医療関係者への啓発を中心に行われ、高松市では、トランスジェンダーの特化した企画が行われるなどそれぞれの地域や団体の特性に応じた事業実施が行われました。

#### ・地方自治体との連携がさらに深められました。

名古屋市、広島市、兵庫県などでは、自治体の自殺対策計画への反映についてが議論されました。また、那覇市では、県の相談援助職との意見交換の場ができ、札幌市、高松市では、市の担当者からのゲートキーパー養成講座の開催、函館市では、女性センターとの協働する事業が行われました。

#### ・地域団体のエンパワーメント

いわき市では、地域密着型で安心できる場づくりが行われ、広島市では、コロナ禍で中断されていた対面での交流事業の再開の契機となり、那覇市では、二度目と開催となり、地域団体間の横での連携がより深化することができました。

---

### (1)札幌市 令和4年10月8日(土)9(日)

#### a.ネットワーク会議 10月9日(日)

- ①日 時: 令和4年10月9日(日)13時30分～17時15分
- ②場 所: 札幌市民ホール(札幌市中央区北1条西1丁目1-7)
- ③内 容: 参加者の自由な話と交流ができる交流会とゲートキーパー入門講座、個別相談
- ④参加費: 無料
- ⑤主 催: プライドハウス東京、にじいろほっかいどう
- ⑥参加者数: 延べ人数38人(現地参加17人、オンライン参加21人)
- ⑦参加団体: プライドハウス東京、札幌こころのセンター、北海道いのちの電話、NPO法人L-Port
- ⑧当日の様子:

前半は、北海道いのちの電話、札幌こころのセンター、NPO法人L-Portが講師として登壇し、それぞれの団体から活動報告があった。後半のパネルディスカッションでは、それぞれの団体の相談アプローチが対面相談、電話相談、LINE相談、手法の違いがあるが、それぞれがお互いの足りないところを補完したらよいのではないか。統計の男女別調査について、支援者の価値観への支援への影響や相談員さんへのケアなど支援体制について、LGBTQ+の理解啓発についてなどが話し合われた。

#### b. c.交流会&ゲートキーパー入門講座、個別相談

- ①日 時: 令和4年10月8日(土)13時30分～17時15分

- ②場 所: 札幌市中央区民センター内会議室(札幌市中央区南2条西10丁目)
- ③内 容: 参加者の自由な話と交流ができる交流会とゲートキーパー入門講座、個別相談
- ④参加費: 無料
- ⑤主 催: にじいろほっかいどう・プライドハウス東京
- ⑥後 援: 札幌市
- ⑦参加者数: 延べ人数50人(交流会参加27人、ゲートキーパー入門講座参加23人)
- ⑧当日の様子:

#### 13:30～16:15交流会set free Sapporo

ユースから多様な世代やセクシュアリティ、ジェンダーの方が参加した。初参加の方もいれば、常連の方もいた。グランドルールの確認の後、自分のセクシュアリティやジェンダーについて言える範囲で開示し、さまざまな話題で色々な話がなされた。「不老不死の薬があったら飲むか飲まないか?」というテーマトークでは、死生観やいのちについての会話が合った。「自分の人生に終わりがあるからこそ、今を充実させたい」という話があった。ご自身の身近な人のいのちについて語る参加者もいた。

#### 16:30から17:15 ゲートキーパー入門講座

札幌こころのセンターの講師に、オンラインで研修を行った。札幌市の自殺防止対策に関するデータやゲートキーパーとしての基本的な人とのかかわり、自分自身のメンタルケアについて学ぶことができた。質疑応答では「講師自身がゲートキーパーとして、何人のいのちを救えたと思いますか?何人のいのちを救えなかったと思いますか?」「自殺防止対策に関するデータが男女に分かれている。この聞き方は(トランスジェンダーやノンバイナリー、XやQの当事者にとっては)つらくなる」ということが話題に上がった。

同時に別会場にて個別相談会を開催し、2件の相談を受け付けた。

#### ○事業実施によって得られた効果

- ・顔を合わせて相談機関同士がつながるきっかけをつくることができた。
- ・民間団体がLGBTQ+についての教材作成をしているなどの取り組みが共有された。
- ・身近な人を自死で亡くした人のニーズの高さが明確になった。

#### ○新たに明らかになった課題

- ・行政や民間の支援団体にLGBTQ+の知識が少ないと、相談のハードルが高い
- ・自殺防止対策に関するデータの取り方に男女分けがあり、課題があることが分かった
- ・身近な人を自死でなくした人にとっては、ゲートキーパー入門講座に物足りなさがあった。

#### ○取組みの工夫(事業実施体制・プロセス)

- ・地元で長く活動している団体との連携は効果大きい
- ・行政の方に協力をいただきゲートキーパー入門講座を開催することで、多くの人を知るきっかけをつくることできた。

---

#### (2)那覇市 令和4年11月20日

##### b.交流会

- ①日 時: 令和4年11月20日(日) 18:00-20:00
- ②場 所: みんなの貸会議室那覇泉崎店501会議室(那覇市泉1-13-3 資格の大原沖縄校ビル旭橋駅近く)
- ③参加費: 無料
- ④主 催: プライドハウス東京
- ⑤協 力: ていーだあみ、にじゆい、一般社団法人ピンクドット沖縄



⑥参加者数: 42人

⑦内 容: 沖縄で活動する、LGBTQの課題に取り組む団体や個人同士が自由に歓談できる場を提供し、相互の交流を実施しました。

⑧当日の様子:

・参加者の所属団体は、「一般社団法人ピンクドット沖縄」「ていーだあみ」「にじゆい」「nankr」「[いるまんちゃー](#)」「一般社団法人ちむぐみ」等、沖縄で活動する主な関連団体の参加をいただきました。

### ○事業実施によって得られた効果<地域や社会に与えた影響>

- ・全国レベルで展開をしているサポートの可視化・周知化がなされました。
- ・地域で居場所にアクセスが限られている人たちへの居場所提供・意見交流の場所を提供しました。
- ・地域でLGBTQ+コミュニティにサポートを提供している方達の支援をしました。

### ○新たに明らかになった課題

- ・地域における、安心してセクシュアリティについて喋れる居場所の欠落している。
- ・地域におけるLGBTQ+コミュニティのニーズ(ゆんたく会の参加者など)がある。

### ○取組みの工夫(事業実施体制・プロセス)

- ・ゆんたく会を申し込み不要・途中参加・退出OKという運営方法にし、どなたでも参加しやすいイベントにイベントにしました。
- ・チラシをイベント会場で配った効果がありました。(15%の参加者がチラシ経由で参加)

---

### (3)いわき市 令和4年12月3日(土)

#### b,c「いわきセーフスペース」&「個別相談会」

①日 時: 令和4年12月3日(土)11時00分~17時15分

②場 所: SOCIALSQUARE上荒川店(福島県いわき市平字上荒川桜町1-1)

③内 容: 「いわきセーフスペース」&「個別相談会」

④参加費: 無料

⑤主 催: さんかく、プライドハウス東京

⑥後 援: いわき市

⑦参加者数: 12名(スタッフ含む)、無料個別相談4件

⑧参加団体: プライドハウス東京 さんかく

⑨当日の様子:

11時から14時まで個別相談会を行い、相談件数は4件であった。

15時から17時まで交流会を行い、20代から50代のさまざまジェンダー・セクシュアリティの方に参加いただいた。プライドハウス東京スタッフよりプライドハウス東京の取り組み、いのちの連携事業の説明を行った後、2つのグループに分かれて話したいことを自由に話していただけるようにスタッフがファシリテーターとして入りグループトークを行った。常連の方が、初めて参加される方をフォローするなどお互いを尊重している様子が見て取れた。後半は「いわき」のいいところをテーマに全員で話し合いを行った。地元にも気軽に行けるコミュニティスペースが必要だと言う意見が多く聞かれた。

### ○事業実施によって得られた効果

- ・いわき市で初めてLGBTQに関する個別相談会が行われ、LGBTQに関する相談のニーズがあることを示す根拠がひとつできた。
- ・いわき、福島、東京が連携し新たな場の創出を行うことができた。

・交流会や相談会をしたことで、1人ではないと感じられ、孤独や孤立を防ぐ機会となった。

### ○新たに明らかになった課題

- ・継続的な交流会と個別相談会の実施が必要である。
- ・個別相談のニーズが分かったため対応できるスタッフを増やす必要がある。
- ・気軽に行ける常設の居場所の必要性

### ○取組みの工夫(事業実施体制・プロセス)

- ・市内で活動する臨床心理士に相談員をお願いすることで、相談者が個別相談後も継続して相談できる体制をつかった。
- ・交流会会場にLGBTQに関する本を多数配置し、交流会後も情報を得られる資源のひとつとして紹介できるようにした。

=====

### (4)名古屋市 12月4日(日)

①日 時: 令和4年12月4日(日)10時から16時

②場 所: イーブル名古屋 名古屋市中区大井町7番25号

③内 容: 講演会「教育・保育におけるジェンダーニュートラルを考える」「家族としてとるべき言動と、してはいけない言動(録画講演)」「地域における性的マイノリティの自殺防止対策とは」

④参加費: 無料

⑤主 催: プライドハウス東京、にじいろ保育の会、NPO法人PROUD LIFE、NPO法人ASTA

⑥後 援: 愛知県教育委員会・名古屋市教育委員会

⑦参加者数: 100名、居場所相談支援81名

⑧当日の様子:

NPO法人ASTA・NPO法人PROUD LIFEを中心に、多様な支援者がイベントに集まり情報交換をすることができた。同じ地域で活動している団体や個人が一同に会うことにより、LGBTQ+の命に関する取り組みの成果と課題、これまでの取り組みやこれからの取り組みについてかんがえるきっかけを作ることができた。元々地元地域で活動をする団体であったが、イベントを起点として対面で情報交換や交流をする良い機会になった。プライドハウス東京がかかわることで、それぞれの団体の情報交換を今まで以上により活発にするきっかけの一つとなった。イベント会場には多様な参加者が集まり、自殺防止対策について交流するよい機会になった。

### ○事業実施によって得られた効果

- ・愛知県のこころの健康推進室の担当者の方、地元のクリニックの方、地元のLGBTQ+団体が、それぞれの取り組みや成果と課題を共有することにより、互いの活動を認識する良い機会となった。
- ・上記のことに関連して、会場で対面でディスカッションを行うことでこれまで以上のネットワーク構築のよりよいきっかけとなった。それぞれの団体で連携を模索するきっかけを作ることができた。
- ・イベント実施後に、愛知県の担当者の方から連絡をいただき、担当相談員向けの研修会についての相談があり、自殺防止対策の具体的な取り組みについて前進することができた。

### ○新たに明らかになった課題

- ・イベントに登壇したそれぞれの団体が自殺防止対策について取り組みをしているが、横連携について可能性があることが可視化された。
- ・それぞれの団体の強みと脆弱さが判明した。それぞれの団体には得意とする守備範囲があり、団体ではカバーできないことがあることが明確になった。

・地元で活動しているHIV/AIDSにかかわる団体が本イベントを認知していなかった。より幅広い告知や周知の仕方に課題が残った。

### ○取組みの工夫(事業実施体制・プロセス)

・それぞれの団体が内部での人材育成や研修を充実させていることがわかった。各団体独自のイベントに参加した参加者に積極的に声をかけ、構成員を増やし、継続的な人材育成をしていることが明確になった。その方法には学ぶべき点が多くあった。

・複数の団体と共同することにより、地元の各機関に幅広くイベントの告知をすることができた。教育機関へのチラシの送付やアメリカ大使館との連携はその事例の一例である。

・LGBTQ+当事者だけでなく、情報保障に関する取り組みも充実しており、想定されるマイノリティの方を取りこぼさない運営方針に学ぶべき点が多くあった。

### (5)広島市 令和4年12月10日

#### a.b.c.「地方対象LGBTQ+自殺対策セミナー&座談会

①日 時: 2022年12月10日(土)10:30~16:30

②場 所: 広島市総合福祉センター大会議室(広島県広島市南区松原町5番1号)

③内 容: 医療関係者・身近に当事者がいる支援者・LGBTをはじめとする性的マイノリティの方を対象とした講演会及び交流会

④参加費: 無料

⑤主 催: 一般社団法人広島県セクシュアルマイノリティ協会、プライドハウス東京

⑥後 援: 広島県 広島市 広島県医師会

⑦参加者数: 44名

⑧参加団体: 広島県疾病対策課、認定特定非営利活動法人 京都自死・自殺相談センター広島支部 ひろしまSotto、一般社団法人にじいろドクターズ

#### ⑨当日の様子:

・第一部のセミナーでは、まず、プライドハウス東京の前田から、「プライドハウス東京の自殺予防に関する取り組みについて」の説明を行った。次に、広島県疾病対策課の勝田徹課長から「県の自殺対策推進計画の骨子案について」の(1)趣旨背景、(2)現状、(3)これからの取り組みについて3点についてお話を伺った。その後、認定特定非営利活動法人 京都自死・自殺相談センター広島支部 ひろしまSotto代表 武田慶之氏より、団体の活動内容や自殺予防を取り組みにあたって、どのような姿勢で臨んでいるかなどの肝要な点について講話していただいた。

・第二部では、前半2つの小グループでのフリートークを行った。性表現としての制服や服装の選択の可能性や職場でのダイバシティについて話題が出た。後半は、一般社団法人にじいろドクターズ理事 久保田希氏の講演を伺った。

### ○事業実施によって得られた効果<地域や社会に与えた影響>

・参加人数会場8人オンライン9人で、年齢も10代から中高年まで幅広い参加があった。島根県をはじめとして他県からも参加もあり、これまで、参加することがなかった方も多く参加され、今まで届かなかった層へのアウトリーチが行われた。

・自殺予防・自死遺族支援に取り組んでいる団体との顔が見える連携を作ることができた。

・広島県の担当課長に登壇していただき県の自殺対策の取り組みを伺うことができた。行政関係との連携を通して、政策への反映に向けての糸口になりそう

### ○新たに明らかになった課題

・地域の企業のD&I担当者、大学の学生相談の担当者、土業をおこなっている方の参加もあり、LGBTQ支援に関心があり、今後取り組んでいきたいと考えている方々の参加もあった。

・座談会に参加した方々の話から、ジェンダーに関して話し合える場が少なく、開催が望まれているようだ。

### ○取組みの工夫(事業実施体制・プロセス)

- ・医療分野は、命に直結するため、地元の県及び市の医師会の後援をとり、医系大学の同窓会を通しての告知や、広島県臨床心理士会を通して会員の心理士に告知するなど、医療関係者に対して集中的に告知・参加呼びかけを行った。
- ・座談会は、メタバース空間を利用したオンラインにても行いました。そのことで、自分の望む性自認や性表現により、参加することができるようになり、今まで、そうしたことがネックとなり参加できなかった人たちも参加できる可能性を広げることができた。
- ・当事者に限定しない参加呼びかけの方が、かえってカミングアウトできない、バレることが不安な当事者にとって、参加しやすい環境となっている。

---

### (6)函館市 令和4年12月17日

①日 時: 令和4年12月17日(日)14:00~16:00

②場 所: 北海道函館市女性センター(函館市東川町11-12)

③内 容: 函館・道南のLGBTQ+交流イベントhakodate set free(函館セットフリー)

④参加費: 無料

⑤主 催: プライドハウス東京、にじいろほっかいどう

⑥後 援: 函館市、函館市教育委員会

⑦参加者数: 14名(スタッフ含む)

⑧当日の様子:

・テーマトークでは新聞記事を読みながら「自殺も個人の自由なの?」について感じたことや気づいたことを参加者で話し合った。

・レインボーはこだてプロジェクト<https://rainbowhakodate.wixsite.com/rainbow>

この団体関連のイベントやネットワークで、交流会に参加したほとんどの人は既に顔見知りであった。無料個別相談に申し込んだ方のみ、初参加。相談が終わった後に交流会にも参加していた。

・にじいろほっかいどうの代表は、これまでも道内各地で交流会を開催しており、会の初めから終わりまで随所に参加者への配慮が感じられた。安心安全な場が保証されている。

・初参加の方は「このような交流会に初めて参加した」「参加するのにとってもドキドキしたが、今参加しないといけない。今がタイミングだと思ってさんかした」「とても楽しくて色々話せて、参加できて本当に良かった」「プライドハウス東京のパンフレットを持ち帰ります」等と感想を話してくれた。

### ○事業実施によって得られた効果

・レインボーはこだてプロジェクトや函館市女性センターの協力があつた。地元団体の協力があることで、準備・告知・運営がスムーズであった。

・函館市の人口規模は約24万人。人口は減少を続けており、継続したLGBTQ+の交流会があるものの、参加者が少ない。その中で「にじいろほっかいどう」や「プライドハウス東京」が函館コミュニティにかかわることにより、新たな場を創出することができた。

・函館市女性センターでは奇数月第二土曜日にLGBTQ+の交流会を開催している。本イベントだけではなく、当事者の方が継続して集まれる居場所があることがメリットとして大きかった。

・北海道の中でも地方都市である函館市で本イベントが開催されたことに意味があり、都市圏だけでなく地方でも参加者のニーズがあることが想定通り明確になった。

### ○新たに明らかになった課題

- ・継続的な交流会の実施が保証できず、そのための人的・金銭的リソースが乏しい。
- ・女性ジェンダーの当事者の参加者が少ない。参加のハードルを下げる工夫がより一層求められる。
- ・SNS等のさらなる告知の充実が必要である。函館の人口規模を考えるとより多くの参加者が期待されるが、それを阻害するものについて考察が必要である。

### ○取組みの工夫(事業実施体制・プロセス)

- ・交流会の前後に別イベント「ゲイの人と焼きピロシキを作って食べる会」が、レインボーはこたてプロジェクトの主催で行われた。こちらは当事者もアライも参加可能。北海道教育大学の学生さんたちがボランティアスタッフでかかわることにより、ユース世代の参加も多かった。
- ・多様なステークホルダーと連携した取組みが行われている。(函館市・北海道教育大学函館校・まるたまスクウェア)
- ・ゲイピロは函館で継続して行われており(今回が通算10回目)、「ピロシキを作る」「ピロシキを食べる」ということを入り口に、多様な参加者が集まる場となっている。そのイベントと地域連携事業を挟み込むことにより、当事者は一日イベントを楽しむことができた。

---

### (7)高松市 令和5年1月7日

#### a.シンポジウム・ネットワーク連絡会 LGBTQ+のいのちを守る～自死ゼロを目指して～

①日 時: 令和5年1月7日(土)13:00～16:40

②場 所: 高松市立一宮中学校

③内 容: a.シンポジウム・ネットワーク連絡会

④参加費: 無料

⑤主 催: あしたプロジェクト、プライド香川、プライドハウス東京

⑥後 援: 高松市男女共同参画協働推進課、高松市人権教育課

⑦参加者数: 63名参加(内スタッフ9名)

⑧参加団体: プライドハウス東京、あしたプロジェクト、プライド香川、一般社団法人ぬくぬくママSUN`S

#### ⑨当日の様子:

さまざま世代、ジェンダー・セクシュアリティの方に参加していただいた。当日の様子を新聞社に取材していただき、多くの方に知っていただく機会となった。

13:00～14:25

地元子育て支援団体(一社)ぬくぬくママSUN`S代表中村香菜子(トランスジェンダー当事者の姉)、東京で乙女塾を主宰している西原さつきさんをゲストに迎えてあしたプロジェクトの二人とトークセッションを行なった。

14:40～15:15

県内団体の連携を深めるためにプライド香川の藤田さんが中心となり、プライド香川、あしたプロジェクト、マインドファースト島津さん、グリーンワークかがわ杉山さんとトークセッションや団体紹介をした。

15:40～16:40

マインドファースト島津昌代先生をお呼びし、支援者向けゲートキーパー講座を行った。

#### b.交流会・居場所事業 c.相談事業

①日 時: 令和5年1月7日(土)9:30～11:30

②場 所: ふらっと仏生山(相談会、交流会)

③内 容: LGBTQ+のいのちを守る～自死ゼロを目指して～

④参加費: 無料

⑤主 催: あしたプロジェクト、プライド香川、プライドハウス東京

⑥後 援: 高松市男女共同参画協働推進課、高松市人権教育課

⑦参加者数:12名(スタッフ含む)、無料個別相談4件

⑧参加団体:①プライドハウス東京、あしたプロジェクト、プラウド香川

⑨当日の様子:

全世代向けと10代の若者向けにグループを2つに分けて交流会を行った。各グループ、話したいテーマを自己紹介の際に共有し、ファシリテーターを1人決めて、テーマ毎に話をした。

10代の若者向けのグループでは、学校の制服についての話し、全世代向けグループは、職場でのトピックが多くあがっていた。

### ○事業実施によって得られた効果

・これまで交流のなかった、LGBTQ支援団体と自殺対策団体それぞれが繋がりを持ち情報交換を行う事が出来た。

・LGBTQ当事者団体以外の地元の団体を巻き込むことで多様な人にイベントに参加してもらえた。

・新聞社に取材していただいたことにより、多くの人に活動を知っていただくことができた。

### ○新たに明らかになった課題

・継続的な交流会の実施の必要性が分かった。

・当事者団体と繋がりを持っていない当事者へのアプローチ方法の検討。

### ○取組みの工夫(事業実施体制・プロセス)

・主催団体が得意とする教育現場で、教職員への告知を重点的に実施。

・地元子育て支援団体と協力し、子育て世代への告知を行い、普段LGBTの研修等に参加した事のない層へのアプローチに成功した。(地域の人、高齢者も含め、LGBTを全く知らない人なども来場してくれた)

・また、同団体に予約フォーム作成及び予約対応を委託。参加者への細やかな詳細案内や対応を実施する事が出来た。

・交流会では、子ども(10代、小学生)と大人(30代以上)でスペースを区切って話しやすい雰囲気を作った。

=====

## (8)姫路市

### a.ひめじLGBTQ+マイノリティいのちのネットワーク会議

①日 時:2023年1月21日(土)14:00~16:00

②場 所:姫路市市民会館5階 第11会議室(姫路市総社本町112番地)

③内 容:関係団体との意見交換会

④参加費:無料

⑤主 催:そらにじひめじ、プライドハウス東京

⑦参加者数:16名

⑧参加団体:コムサロン21、公益財団法人 兵庫県人権啓発協会、姫路市教育委員会、姫路市保健所、路上生活者ふれあいサークルレインボー

⑨当日の様子:

趣旨の説明の後、プライドハウス東京とそらにじひめじから、支援を行った事例紹介を行いました。全体で、参加団体の活動紹介及び参加者の自己紹介を行い意見交換を全体での行いました。その後2つのグループに分かれてのワークショップを行いさらに議論を深めました。居場所の重要性や行政サービスの限界や無理解による不利益があることなどが話し合われました。

## b.居場所「にじいろひめじ LGBTQ交流会」

①日 時:2023年1月22日(日) 14:00~16:00

②場 所:そらにじひめじ2階

③内 容:LGBTQ交流会

④参加費:無料

⑤主 催:そらにじひめじ・プライドハウス東京

⑥参加者数:12名

⑦参加団体:コムサロン21、公益財団法人 兵庫県人権啓発協会、姫路市教育委員会、姫路市保健所、路上生活者ふれあいサークルレインボー

⑧当日の様子:

本日の企画の趣旨を説明。参加者の皆さんに、そらにじひめじを知ったきっかけや、居場所としてどう活用しているかについて話をした。それぞれにとって、重い思いに過ぎせ、気軽に話ができる貴重な居場所となっていることが伺えた。また、運営にあたって、スタッフと来訪者の関係のあり方が、型にはまらず、自由度が高く、来訪者が関われることの多様性があるとのことだった。姫路以外にも、こうした場所がもっとあると良い。

## c.「無料個別相談会」

①日 時:2023年1月22日(日)15:00~17:00

②場 所:市内会議室

③内 容:LGBTQ+当事者と支援者を対象とし、LGBTQ+当事者の相談や生活相談の経験がある専門相談員が対面で相談を受ける。

④参加費:無料

⑤主 催:そらにじひめじ・プライドハウス東京

⑥参加者数:2名

## ○事業実施によって得られた効果<地域や社会に与えた影響>

・行政機関を含めて、膝をつけ合わせて、LGBTQ+の自殺対策を考える機会を作ることができた。

## ○新たに明らかになった課題

・自殺対策を考える上で警察関係者にも参画をしていただければよかった。

## ○取組みの工夫(事業実施体制・プロセス)

・相談会は、相談者が安心できるような場の設定を行いました。

=====

## (9)福島市(福島県)

### a.福島県でLGBTQと自殺防止対策を考える【福島ネットワーク会議】

①日 時:2023年2月11日(土)9:45~11:45

②場 所:福島テルサ 大会議室あぶくま

③内 容:関係団体との意見交換会

④参加費:無料

⑤主 催:さんかく、よりみち、プライドハウス東京

⑥参加者数:34名

### b.c.交流会「ふくしまセーフスペース」・無料個別相談

①日 時:2023年2月12日(日)13:30~16:30

\* 相談は10:00~10:50、11:00~11:50

②場 所:福島市アクティブシニアセンターアオウゼ

④参加費:無料

⑤主 催:よりみち、プライドハウス東京

⑥参加者数:15名

### ○事業実施によって得られた効果<地域や社会に与えた影響>

・いつもの開催と違った形の開催を提供することで、しばらく離れていた参加者の再獲得 にも繋がった。

### ○新たに明らかになった課題

・参加者から寄せられた声からも、交流会だけでは必ずしも参加者のニーズに寄り添いき れないことがより明確となった。個別相談の必要性も強く感じた。

・現行のスタッフ以外にも地域で働く支援員を起用していくことが望ましい。

・「周囲にセクマイだとバレてしまったらどうしよう」という不安が未だ強いようだ。

・交流会参加への心理的ハードルを下げられるよう、広報の時点で安心・安全と判断してもらえるような配慮が必要。また、今後は地域の社会資源や公的機関と連携した広報を行いたい。

### ○取組みの工夫(事業実施体制・プロセス)

・東京、いわきの団体と協働することにより、よりみちの存在・取組みをより広く周知できた。

・個別相談という新たな繋がり方、相談方法を提示できた。

=====  
**(10)長崎市(長崎県)**

#### **b.c.Take it ! 虹 定期交流会・無料個別相談会**

①日 時:2023年3月11日(土)19:00~21:00

②場 所:長崎県市町村会館馬町別館4階

③内 容:支援者向けスキルアップ研修・活動報告&情報交換会とゲートキーパー養成講座

④参加費:無料

⑤主 催:NPO法人心澄、Take it ! 虹、プライドハウス東京

⑥参加者数:38名

⑦当日の様子:自殺予防事業ということもあり、今回の交流会では自分自身のピンチを想定し、サバイブするための選択肢を増やすためのトークやワークを実施しました。ワークの中ではカミングアウト後の人間関係や災害時、家族との関係性や、ハラスメントへの対処法など、多岐にわたる想定が行われ、トークがはずみました。

#### **a.LGBTQ+サポーター養成講座**

①日 時:2023年3月12日(日)10:00~17:00

②場 所:長崎県市町村会館馬町別館4階

③内 容:支援者向けスキルアップ研修・活動報告&情報交換会  
ゲートキーパー養成講座

④参加費:無料

⑤主 催:NPO法人心澄、Take it ! 虹、プライドハウス東京

⑥参加者数:50名

⑦当日の様子:長崎県内で相談支援団体の現状共有を実施しました。全体として、若年者支援



団体が中心となり、電話相談や対面相談を行っているが、年齢層によって受けられる支援の幅が狭いことや、離島や遠隔地の対面相談支援体制が整っていないことが浮き彫りとなった。医療提供体制の現状や県内の課題共有が行われたことで、共通意識や連帯につながった。

⑧参加団体：NPO法人QWRC、カウンセリング・ラボSORA、長崎県、長崎こども・女性・障害者支援センター、チャイルドラインながさき、NPO法人心澄、Take it！虹、プライドハウス東京

### ○事業実施によって得られた効果<地域や社会に与えた影響>

- ・支援者向けのスキルアップ研修だったが、普段交流会に参加している当事者層の参加も多く、これまで自身ケアに当たっていたスポットが他者へと広がっていることが感想として挙げられた。
- ・今回初めて個別相談につながった事で自身の思考を整理するとともに、地元の支援団体への今後のつながりができた方がいる。

### ○新たに明らかになった課題

- ・離島や県内遠隔地からの参加もあり、サポートの意思を持つ方が全域にいることが可視化された。
- ・今回の事例発表を行ったケース以外にも、参加者の中から学生団体や就労支援組織などが現在行っている取り組みの紹介があり、情報共有を行うことができた。

### ○取組みの工夫(事業実施体制・プロセス)

- ・現在実践されている支援内容の共有を行ったうえで、課題を共有することができた。今後不足している支援についての検討を行う下地ができた。
- ・支援機関が集まったことで、現在の県内の医療提供状況の共有や連携を図ることができた。



### エ)オンラインでのアウトリーチ・啓発

自殺念慮・自殺企図のリスクが高まりやすいLGBTQへ本支援を周知するとともに、支援者により広くLGBTQへの支援ニーズを伝えるために、オンラインでのアウトリーチ・啓発を行います。令和3年度事業の制作物(動画・冊子)についてSNS等を通じ広く届けました。

目標：のべ2000PV、実績：4,238PV 2023年1月14日現在